

アンケート調査結果

第六章 自由記述回答(概略)

本章では、自由回答の記述を通して水産学会における研究者・技術者の意識をとりまとめた。男女共同参画学協会連絡会第三回大規模アンケートのうち水産学会データにある自由記述回答は合計 177 件であり、水産学会員総回答数の 30.5%になる(「なし」「特になし」の回答を除くと 171 件、29.5%になる)。なお個人情報を排除して記述内容を分類整理した。

自由記述欄に多く見られた回答

大規模アンケート解析報告書の第六章自由記述回答に倣い、記述回答の分類を(1)ポジティブアクション、(2)キャリアパス、(3)ワーク・ライフ・バランス、(4)意識改革・男女共同参画とした。なお、各分類項目の定義はないため大規模アンケートの具体例に準拠して分類した。

記述回答の傾向は以下であった。

なお、具体的な個別意見については現在解析中のため、後日掲載予定である。

(1)ポジティブアクション

数値目標と女性優先枠の意義や必要性などについて記述した回答が多かった。意義は一般論として認めつつも水産学会と水産分野では他の解決策の模索も必要であるとの意見や女性優先枠への問題点を指摘する意見も少なからずあった。

(2)キャリアパス

任期付研究員の雇用に対する不安についての記述が多かった。特に若手研究者が継続して安定性のある職に就けないことへの不安が研究と生活の療法に影響していることがうかがえた。また研究と出産・育児の両立の難しさへの意見も多かった。雇用の安定性・継続性実現への取り組み並びに研究と育児との両立可能な環境整備が望まれる。

(3)ワークライフ・バランス

任期付であっても時短など多様な働き方ができれば、育児はじめ家庭生活と研究との両立が可能となると考えている記述が多かった。多様な就労スタイルに合わせた勤労環境改善が望まれる。

(4)意識改革・男女共同参画

男女双方の意識改革、さらに社会全体での意識改革を望む回答が多かった。まだまだ男女共同参画の活動の啓蒙・啓発が重要であることがうかがえる。また新たな取組や方向性としてヒントを提案している興味深い意見も数多くあった。